

商店街活性化への  
取り組みについて

←こみゆに亭カフェの前で



…神奈川県横須賀市追浜商店街  
おっぱま  
追浜町は、大手自動車メーカーの工場があり、工業地・商業地・住宅地が同居する彩り豊かな街です。しかし、駅前立地する追浜商店街は、事業者の高齢化、後継者不足、消費者の横浜への流出等により、衰退の兆しが見られるようになりました。空き店舗も増え、個店だけの努力では頑張れなくなり、街全体の活性化が不可欠となりました。

教室（レンタルフロア）といったコミュニティスペースを併設した「こみゆに亭カフェ&ワイナリー」を立ち上げ、地域コミュニティの活性化につながる事業を展開。学生との連携により、地域資源を活用しワインを醸造するというアイデアを実現することができました。

商店街側としては、学生からのアイデアを可能な限り実現することを心がけて、毎年、新たな商店街活動に取り組んでいます。

今までは追浜には名産がなかったが、「横須賀おっぱまワイン」という新たな名産ができたことに喜びを感じ、ワインだけではなく、他の地域資源も活用した追浜全体のブランドを構築することが長期的なプランとなっています。

行政としても「商店街応援アクションプラン」を策定し、商店街が行う活性化への取り組みを重点的に支援しています。街の規模は大きく違いますが、この羽村市を「安心と活力のあふれるまち」に変えるヒントがたくさんあった視察となりました。



↑新しい名産、横須賀おっぱまワイン

【実施日】  
東松山市  
10月17日  
横須賀市・  
藤沢市  
10月25日

湘南藤沢  
フィルムコミッション

…神奈川県藤沢市  
フィルムコミッション（FC）とは、あまり聞き慣れない言葉だと思えます。映画、TVドラマなどの撮影で公共施設等のロケ現場を提供し、ロケを円滑に進めるための環境整備や諸手続き等を支援する組織のことをFCと言います。自治体を中心に、なって推進することで地域経済、観光振興に大きな効果をもたらすことを目的に



↑映像を交えた説明をFC担当者から受ける

活動する機関です。我が羽村市においては、まだこの体制は整っていません。そこでFCに熱心で成功を収めている、神奈川県藤沢市を訪問し、どのように地域を盛り上げているのかを学びました。

お話を伺う中で、名のある観光名所や歴史等、その地域の特性に違いはありますが、一番

大事なものは熱意を持ったリーダーがいるかどうか。そしてそのリーダーを中心に、スタッフが団結して知恵を出しながら、市民や企業を巻き込んでの流れを作れるかどうか。そしてロケ隊が何を望んでいるのかなどの細かい配慮が成功への鍵であることを強く感じました。実際にロケ隊が来ることで直接的経済効

果が発生します。また放映されれば間接的効果も大変に大きいことを伺いました。羽村市をどうPRし、知名度を上げ、訪れていただくか。課題はありますが、今後の経済活性化と地域振興へつながるよう生かしていきたいと思っています。

まちづくりを  
考える

…埼玉県東松山市  
社会経済状況の変化で各地の区画整理が長期化しています。その対策を視察した埼玉県東松山市は、都心から50km、面積65km<sup>2</sup>、人口9万人の田園都市です。

【高坂駅東口第一区画整理事業  
進行中】

東武東上線高坂駅前には、宅地化が進んでいるが道路未整備のため区画整理を実施。隣接して都市再生機構により東口第二土地区画整理事業も進められており、すでに大型ショッピングセンターが開店しています。



↑高坂駅東口第一区画整理地区で説明を受ける

第一地区は平成6年に都市計画決定、事業認可。面積70・8ha、事業費210億円、事業期間は10年でした。

しかし財政難などから計画を変更。現道も利用して移転戸数を80戸減らすなどで事業費を37億円減少させました。事業開始から17年を経て進捗率53%。担当職員は9人。測量、建物調査、構造設計などは外部委託。費用・期間短縮のための柔軟な計画変更が特徴です。

【和泉町区画整理事業  
凍結】

雑木林や畑が散在しているこの地区は、道路、下水道の都市基盤整備として計画されたが、財政難と住民の反対で平成19年に凍結されました。

昭和43年に都市計画決定。平成5年に事業認可され、面積41・7ha、事業費123億円、事業期間9年間。地権者は800人です。

平成8年、仮換地案個別説明会で、土地の無償提供や金銭負担に驚いた関係住民145人により「反対の会」発足。仮換地指定（9・9ha）では権利者から行政不服審査請求が出されました。市は見直し説明会で、現道を利用した移転戸数減などを提案。また、家屋の建て替え制限の緩和もしました。

その後、「見直し検討会」が設置され、住民委員20人が15回話し合い、「現道を生かし、下水道整備を求める報告書」を市長に提出。アンケート調査でも事業反対が7割に達しました。このため市長は平成16年に凍結を宣言。今後は地区計画での整備を目指しています。

国土交通省も「長期化は事業費の増大や、建築制限などで住民権利の制約になり好ましくない」として具体的な対応を求めています。

## 羽村市内の 介護保険施設の 現状と課題について

### …特別養護老人ホーム羽村園

利用者1人に対する看護職員および介護職員の配置については、基準の3対1に対し、2・23対1と職員を多く配置しており、入居者は男性26人、女性が74人です。  
介護療養病棟の段階的閉鎖などで重度者の受け入れが増えています。疾病、医療行為、精神疾患への対応など、求められるニーズが高度になりつつあり、介護職員による「痰の吸引」「胃ろうの取り扱い」等の医療的対応の整備が進められています。

施設の担当者からは、施設の老朽化や介護職の人手不足、地域包括支援センターの機能と役割の周知、相談機能の充実などの課題があると伺いました。

### …介護老人保健施設あかしあの里

介護、リハビリテーション、その他日常で必

要とされる機能訓練等を行い、在宅生活における生活の向上を目指しています。

施設側の課題としては、利用者の9割近くが特養ホームの待機者であること、医療保険と介護保険の併用ができず高額の治療費を施設が負担しなければならぬこと、介護職員一人当たり平均で1万5千円を支給する「処遇改善交付金」が廃止されれば職員の励みがなくなる、などが挙げられるそうです。

### 《まとめ》

東京都では特別養護老人ホームに入所できない待機者が約4万人います。羽村市民の特別養護老人ホームの実待機者数は75人（平成22年10月1日現在）です。厚生委員会としても介護をめぐる深刻な問題に真剣に向かい合っていかなければと思います。



↑あかしあの里の施設内を視察

## 子どもの権利に 関する条例 子育てジョイカード事業

### …新潟県上越市

【子どもの権利に関する条例】について】

「豊かさ、安らぎ、快適な生活を市民が支えあう自主自立のまちづくり」を基本理念として、人と人、地域と地域が互いに支えあいながら共生する新しいまちづくりを進めていくためには、すべての子どもがいきいきと自分の可能性を追求し、幸せな人生を送ることができるようにしていかなければなりません。この条例の大きな特徴は、

- ① 「知らされる権利」として、子どもが自らの権利を理解することができるよう、その権利を知らされることが保障されていること。
- ② 地域全体が共通認識のもと協力・連携できるように、市をはじめ、それぞれ主体の責務を明確にしていること。
- ③ 子ども会議からの提案内容を条例案に反映させていること。

【実施日】  
羽村園・あかしあの里  
10月4日  
上越市・長岡市  
10月17日～18日

このように「子どもに託すおとなの思い」と「子ども自身の思い」が込められているところ。未だの宝である子ども達を、地域全体で支えあい大切に育てたい。」この思いが十分に伝わってききました。

### 【子育てジョイカード事業】について】

この事業は、多子世帯の経済的負担の軽減と地域全体で子育てを応援しようという機運を高めることを目的に実施されています。18歳未満の子どもが3人以上いる世帯にカードを配布し、このカードを提示した人に、協賛企業、店舗などから商品の割引や特典などのサービスを提供していただくものです。

このカードは、対象者の98%以上の方に利用され、大変に喜ばれています。現状では「親と子ども」に限られている2枚のカード利用者の範囲の拡大や、1世帯あたりのカード発行枚数を増やしてほしいなど、意見が数多く寄せられています。

羽村市内の子育て世代の方々からこのような施策の要望を多くいただいていますので、実現に向けた取り組みの必要性があるのではないのでしょうか。



↑上越市子育てジョイカード

## 子育て支援策について

### …新潟県長岡市

【子育て支援策について】

この施策の大きな特徴は、妊娠したときからその子が誕生し中学校を卒業するまで、教育委員会が一貫した支援を行うことで、成長期に合わせた子ども一人ひとりの見守りに非常に有効であることです。

具体的には、平成19年4月、教育委員会に「子ども家庭課」と「保育課」を新設し、子どもに関する施策を統合。子どもたちが健康やかに成長していくためには、乳幼児期から思春期まで子どもの成長に合わせた一貫した支援体制が必要であり、そのための有効な方策として、一元的に支援する体制を整えました。このことにより、子どもの育ちと教育全体に対応できる総合的な施策が可能になり、これまで以上に家庭や地域を含めた教育環境の向上が図られるようになりました。

平成23年4月には、教育委員会に「子育て支援部」を設置。教育と子育て支援をさらに充実させていきます。

【子育ての駅千秋】について】

「屋内で親子で遊べる場所がほしい」との住民の声に応えて、雨や雪の日でものびのびと



↑施設内を視察する厚生委員

遊べる屋根付き広場と、子育て支援機能が一緒になった施設（愛称：てくてく）が長岡市に開設されたのは、平成21年5月5日です。  
全天候型の広場と子育て支援施設を一体的に整備した全国初で長岡オリジナルの『保育士のいる公園』として、子育て世帯の親子や子育てサークルをはじめ、子育ての先輩や次代の親となる若者など、様々な世代間での交流を深め、子どもを取り巻く地域社会全体で教育する力を高めるとともに、子育て支援の輪を広げていきます。気候の良い時期には、2haの広大な公園で、子ども達が元気一杯に遊ぶこともできます。

長岡市には、今日の米より明日の子どもたちのために「という「米百俵の精神」が根付いており、教育に関する独創的な発想は特筆すべきものでした。